



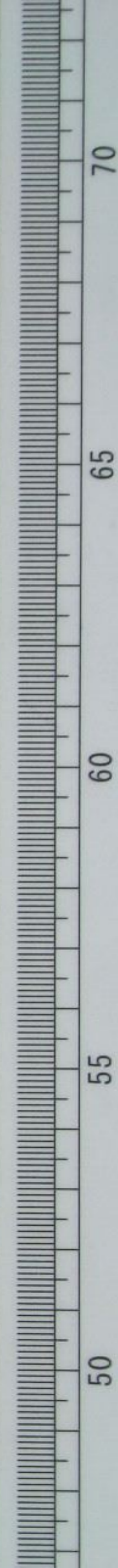
增補
頭書

訓蒙圖彙大成

七

~~P
27
7~~

逍遙文庫
文庫 6
27
7



喜

頭書增補訓蒙圖彙卷之十四

龍魚

此部小海水川谷よとひ
りくくの龍蛇魚鱗ととるを

青屋

蛟の龍の角をた
りのかり四足わと
せから青まきまふ
こた綿のてく水
中又深ふ幽谷ま
ひかり
○龍の鱗虫乃長也
せまふ八十一の鱗を
九この数ととるを
うく雲雨はかると



頭書增補訓蒙圖彙十四

産後百餘日、わが

くく、いひ、一、あわ

やま、く、食、ま、い、必

死、と

○鯖、ハ、湿、痺、ふ、う

非、と、同、く、者、大、く

食、す、ま、い、脚、氣、煩

岡、と、治、一、氣、力、と、ま

と、あり

○鮭、ハ、水、腫、と、治、一

痢、疾、と、治、と、と、れ

て、尿、と、る、の、い、く、う

ふ、だ、く、は

○鯨、ハ、煮、て、食、す、と、ハ

う、ま、い、と、や、め、胃、と、あ

た、ら、冷、涼、と、い、む

鯛、魚、同

○鮫、ハ、中、と、あ、さ、み

産後百餘日、わが



魚虎

鯨



鮫

鯨

産後百餘日、わが

くく、いひ、一、あわ

やま、く、食、ま、い、必

死、と

○鯖、ハ、湿、痺、ふ、う

非、と、同、く、者、大、く

食、す、ま、い、脚、氣、煩

岡、と、治、一、氣、力、と、ま

と、あり

○鮭、ハ、水、腫、と、治、一

痢、疾、と、治、と、と、れ

て、尿、と、る、の、い、く、う

ふ、だ、く、は

○鯨、ハ、煮、て、食、す、と、ハ

う、ま、い、と、や、め、胃、と、あ

た、ら、冷、涼、と、い、む

鯛、魚、同

○鮫、ハ、中、と、あ、さ、み

魚名考 不詳 區 魚 類 考 卷 之 四

ひ筋骨とは一脾
胃と和をかく食

○鮭一名過膈魚

○鮭一名過膈魚
いん鮭のつら非也

○鯨の胃とわくめ
人と益一病とむ

○熱とうごり一ツと
後と

○鳧魚の今のころ
だひかりふらぬと

○黄橋の今のころ

○烏類魚の今のころ

○梭魚の五腕とむ

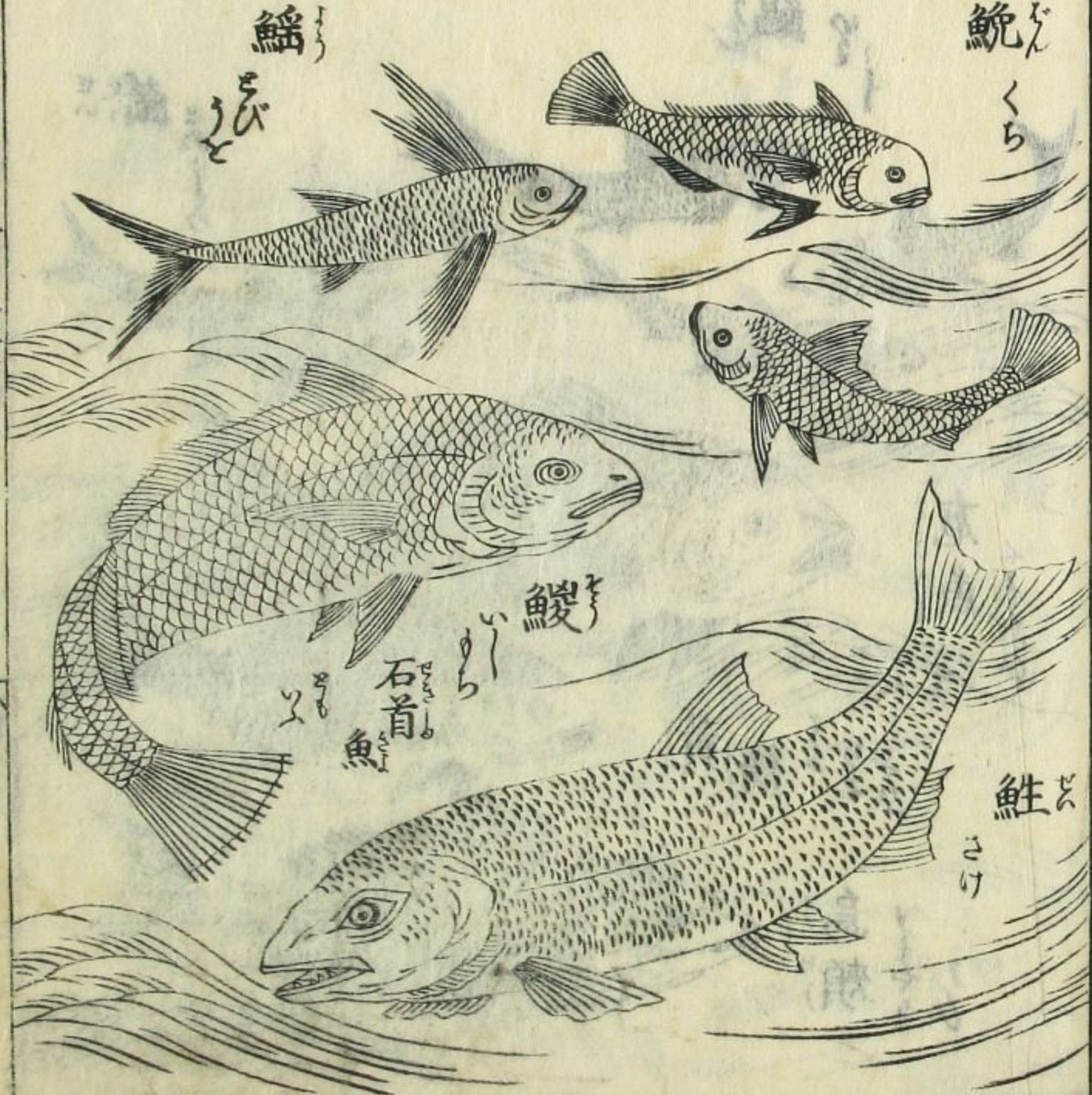
○比月魚の今のころ

○鯨王餘魚とも

○海鯉の五疳湿痺

○面目とむ脚氣

○海鯉の五疳湿痺
面目とむ脚氣



魚名考 不詳 區 魚 類 考 卷 之 四

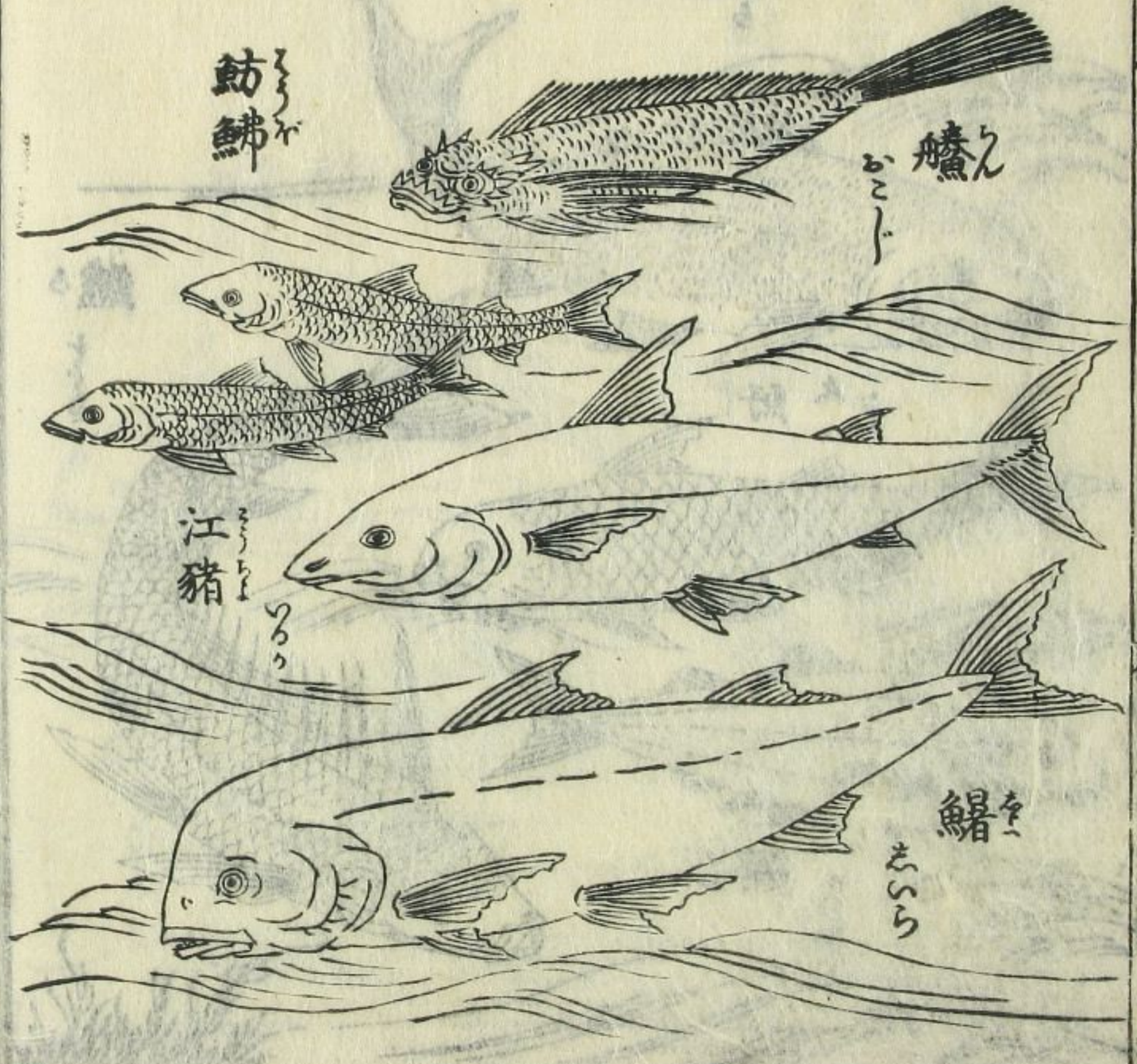
と和し水氣は逐
 りく食とをば痰
 癆んを物つる
 ○鯉の生ハ膈とまよ
 へ灸ハ脾胃とま
 のふ多く食とを血
 としつる
 ○鱸ハ虚勞とをま
 ひ脾胃とまハ腸風
 浮血と治ハ氣力減
 ゆるとて肥とま
 やらうし
 ○魴鯉ハ鯉ハ似
 色ハ一ハ名藻魚と



もつよ
 ○江猪ハ脯とま
 食とをば虫とま
 瘡と治とハ海豚と
 も書あり
 ○鰯ハ其性未考
 秋の末ふ多く出
 ○鱧ハ長ニ丈ハ
 灰ハろろりせふ
 三行あり鼻ハ
 ちくひけり玉版
 魚同
 ○鮫ハ首鬣小
 脚ハ尾の長と



余すちのひ美あり
 皮の刀の柄さやに
 ほとろふたると
 ○鯀の魴鯽は竹
 子小児のくひをらふ
 のありと用を
 ○繪残魚二名王餘
 魚とのみ王船中
 いて繪と海にさる
 小魚くまらり今
 王餘魚これあり
 ○鯽の小鯉に似く
 色くろく一五味こ
 去て煮て食らるる



虚羸とつるさる中
 とわくめと氣脈を
 一ト痢腸痔を
 やむ尊に合してわ
 つりのとあして胃
 よろくちく食らる
 らざらぬつるさる
 中とさるのへスと
 中とさる
 ○鯀水腫と治し
 小便を利し下血と
 つるさるのへスに葱
 と同じく煮て食
 らる



○鯉の頭より尾より
 つらましく鱗小大
 小か一三六二十六
 鱗あり煮て食を
 きい軟通上気黄
 疸と治し渴水腫
 と治す
 ○杜父はいりりちと
 もろしぬをびもも
 又ふかをくひもも
 つらあり玉腫と治す
 かつ脾胃と治す
 又杜父はいりりちを也
 土鋪土鮒土附同



○鮒の虚勞と治す
 多く油分ありと治す
 ぞふりて妙あり
 ○鰻の中と治す
 ひ血とまじり虚と治す
 きりひんこのわく
 露と治す
 ○鰻の虫と治す
 と治し脚氣腰腎
 のあとの湿痺と治す
 一陽と治す
 ○黄籍はやく食
 べしと脾胃と治す
 痰病と一名黄類



魚と云ふ
 ○鰯の中とわて先
 氣と云ふ一酒飲は
 かつたとやめ痔を治す
 ○金魚の深のうら
 に生ると其平毒は
 久病と治と銀魚
 朱鯉朱射わり
 ○年魚の者で食
 とも平憂とやめ胃
 とわとめ冷症と止
 ○鮠の眼のく鮠と
 ちぐく又一名赤眼魚
 と云ふ

○鱈魚の火と云ふ
 け瘻と云ふ一疾と
 熱一瘡を云ふ
 多く食と云ふ
 ○鰯の能毒と云ふ
 ちびらつかりと鰯
 とも書あり
 ○河牝の虚と云ふ
 ひ湿と云ふ腰脚
 とやめ痔と云ふ
 虫鼠と云ふ魚
 大毒あり食へば
 ○鮠の功能と云ふ
 ちびらつかり



魚類考 卷之四

○小鯛の鱧のから
りのり功能をも
に同し

○鐵ハ其平毒カ
あま瓜食をまハ疲
病とやすと針魚同
○鱧ハ胃とわさ丸
中と和を

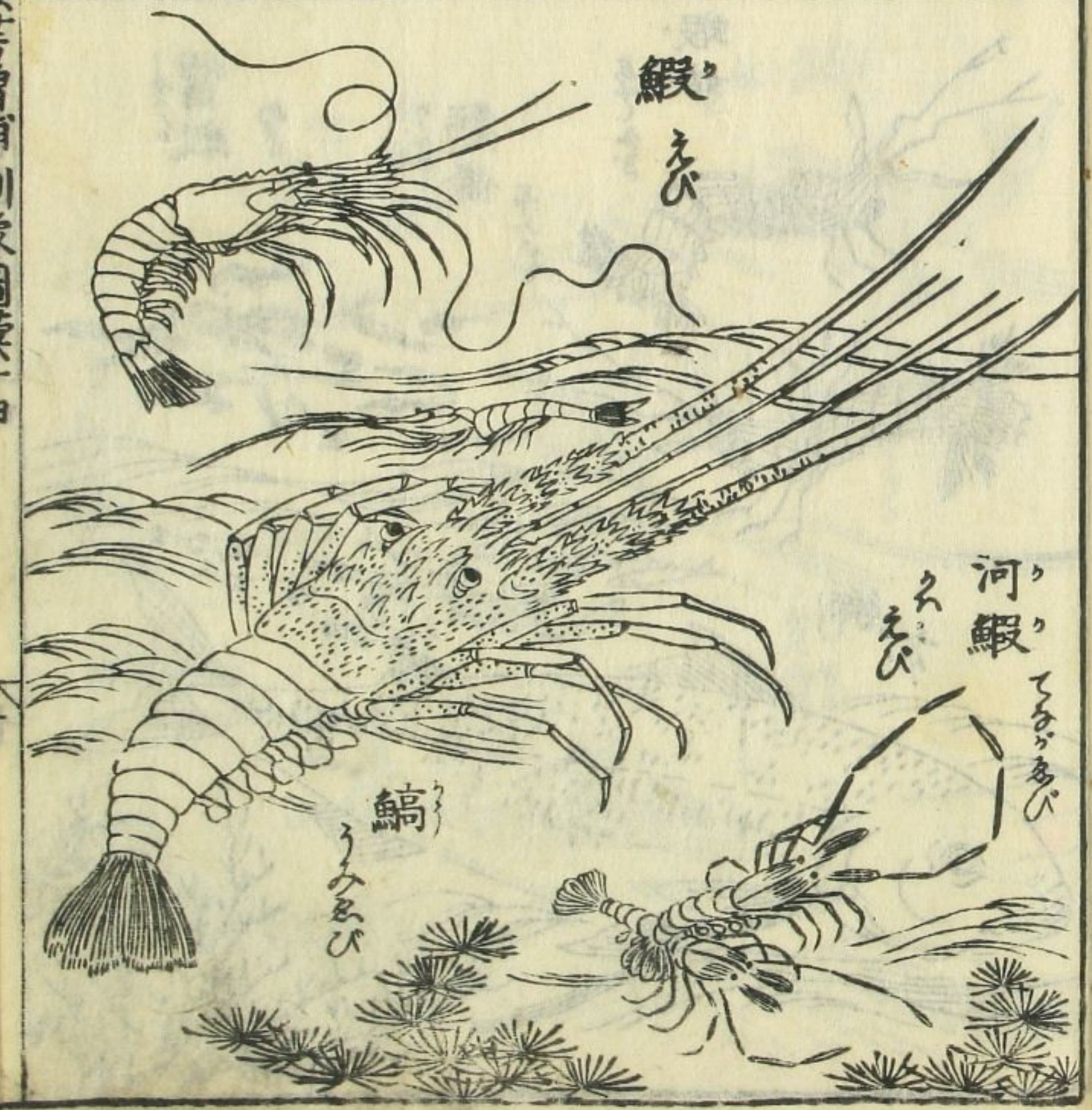
○蝦の鱈と治
痘瘡おつりく
陽とさんふ乳
と通と小兒食と
さけんくくく

蝦同



○鯽の鮮中七食
すまの虫くひを瓜
治し頭のくま瓜治
と紅蝦龍蝦海
蝦同

○河蝦のくまえび
俗ふてまがまびとま
○醬蝦のまひのこま
のまののまひ苗蝦
線蝦泥蝦とも入
○麩條の中とゆく
一胃とまこやま
水と利一軟とやむ
○蝦姑のまひのこま



ひまり海馬とつゝ
 このまゝなり産婦
 もふしここれ手産
 もとつり
 ○鯽の肝と利血
 とどろき入脾胃
 すりのりく入
 かり色
 ○鯽の虚勞とどろ
 ふ油瓜とてや
 けりて妙なり
 ○鯨魚の腹赤とも
 わかりえしこの魚
 と帝ふ献げ事



○矢幹魚のそもに
 ぬく色あり腫症
 のとに食つると
 ○青前魚の諸病
 りと馬鮫のち
 されのち
 ○鯽の能毒つと
 りとを猫の病
 りと
 ○鯽の氣頭魚乃
 ちとれあかり能
 毒のちとれあかり
 かしと



○水母婦人の虚損積血をけり小児の丹毒をやけとふ相て妙なり

○烏賊の氣をよし

○土肉のえと氣瓜をよ

○土肉のえと氣瓜をよ

かゝ五膳とよし三食の熱とよし鴨とよしト

○土肉のえと氣瓜をよ

かゝ五膳とよし三食の熱とよし鴨とよしト

く食とよし

○海馬の血と氣のよし

と治し水腫とわき

り湯道とさんふ

わさゆりと消し疔

とよしとよし

○海牛の功能のよし

つらひらつとよし

○章舉の血とやい

ひ氣とよしと冷から

りのふと脾胃の

きとのの食とよし

章魚同石鮫の

かかた飯城のよし

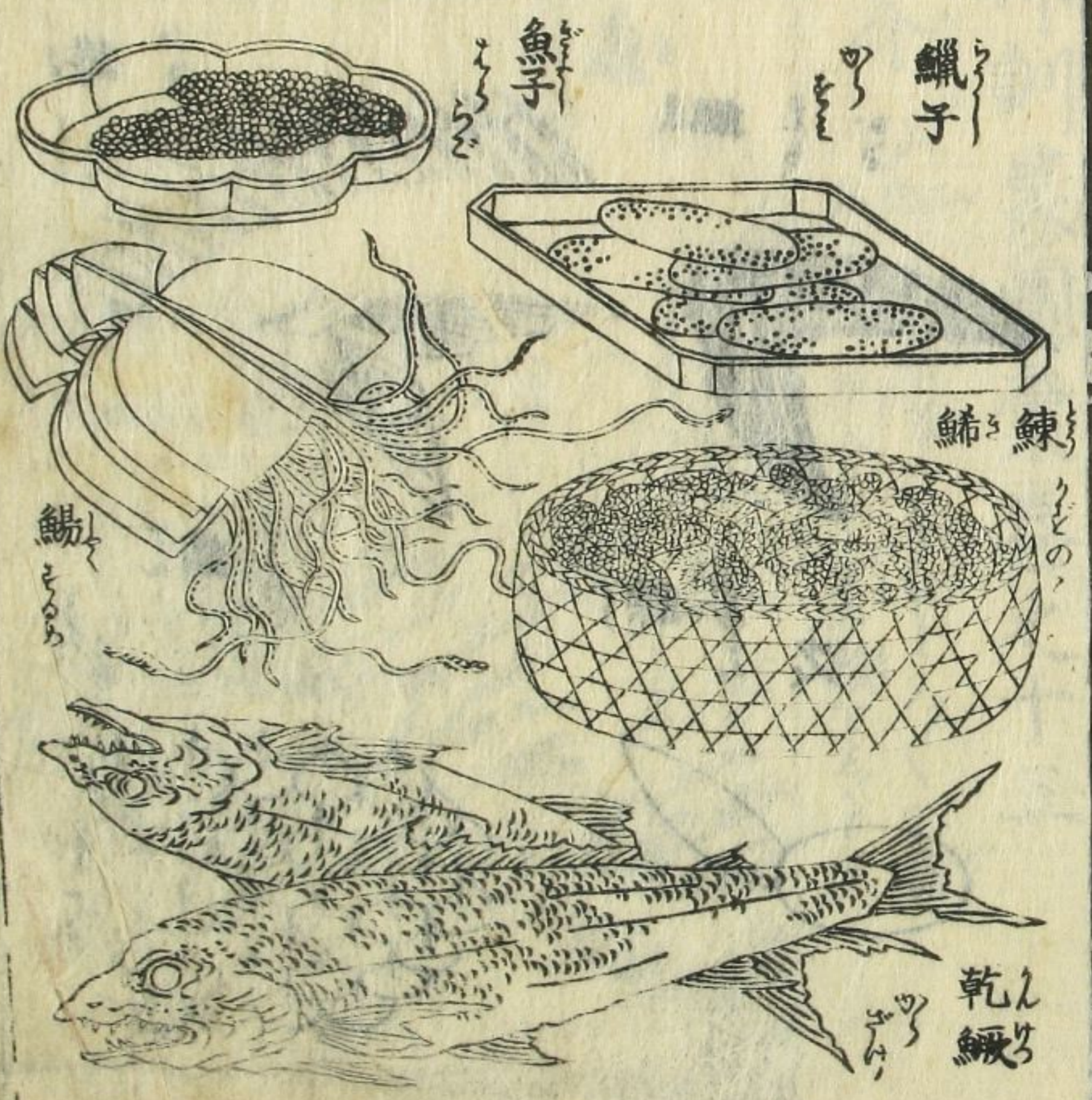


本草綱目卷之四

○鮎アサギの目めの玉たまの出では
 ちてそくとのつらふか
 たりはむとくのつらふ
 わりたるの七八天を
 あり
 ○鮎アサギの疫病やまびを治ぢ
 痕あとと治ぢし虫むしとそくを
 又また鮎アサギとも書か
 ○魚子イサコの目めの玉たまの
 ひかり 鮎アサギの鮎アサギ
 あり
 ○乾鮎アサギの鮎アサギの玉たまは
 から能毒よどく鮎アサギと同
 目の玉たまの出では

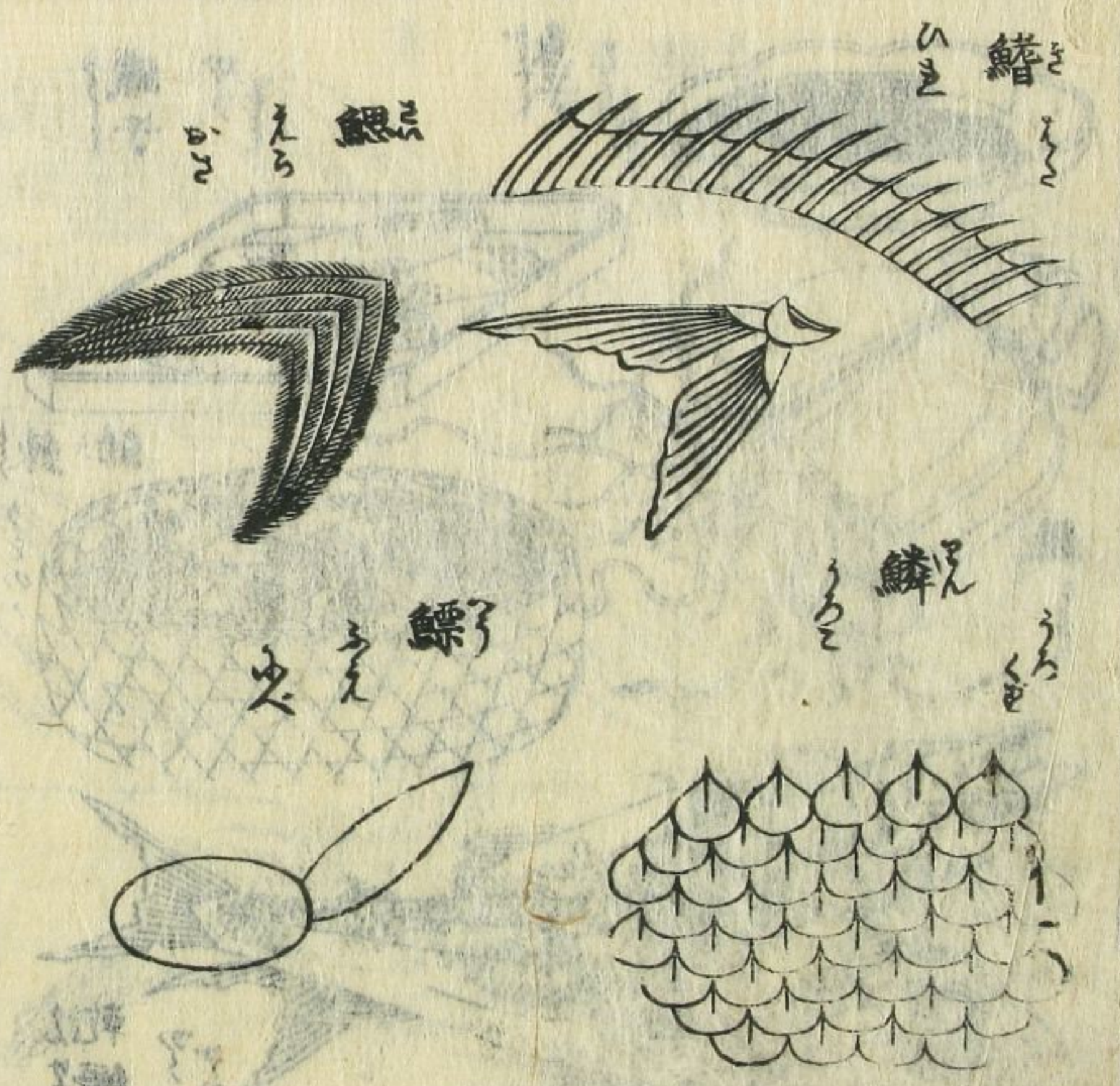


○鮎アサギの鮎アサギの玉たま
 正月しょうげつの玉たまの玉たまに用もち
 ○鮎アサギの鳥賊てうそくの玉たま
 たり能毒よどくの玉たま
 日ひ産後さんごの玉たま
 ○鮎アサギの鮎アサギ乃なり子こ
 の玉たまの玉たま
 ○鮎アサギの魚いさなの脊せきの玉たま
 俗よの玉たまの玉たま
 陽氣やうき下げは玉たまの玉たま
 の美味あじ鮎アサギの玉たまの玉たま
 陽氣やうき下げは玉たまの玉たま



鮎アサギの玉たまの玉たま

美味腹のり
 ○鱗魚龍のり
 カを鱗のり
 長かゝ鯉のり
 鱗のり
 三千鱗のり
 ○鯉魚の類乃中の
 骨多し俗小これとえ
 ○鯉魚の腹中の
 骨多し俗小これとえ

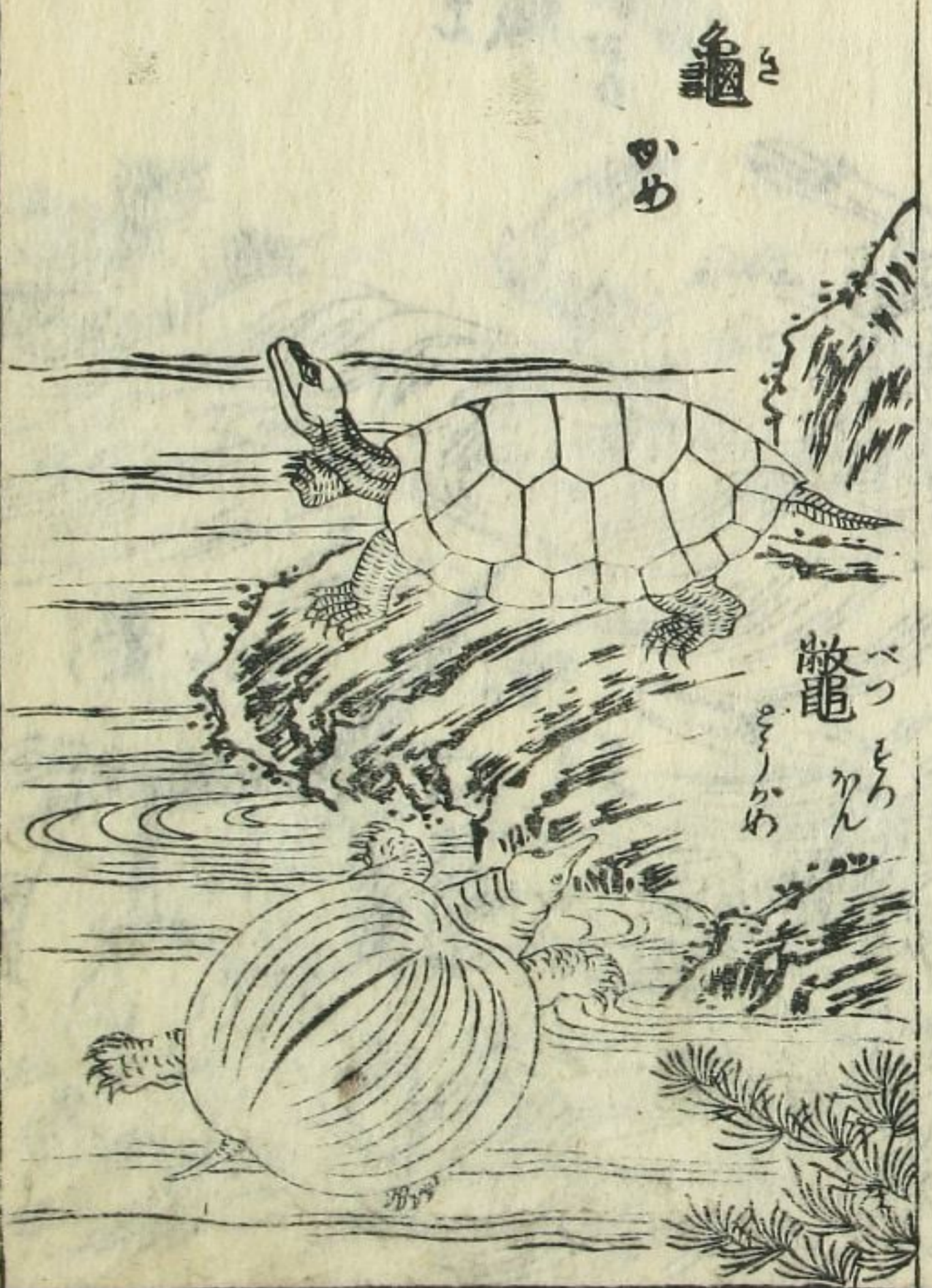


頭書增補訓蒙圖彙卷之十五

蟲介

此部ハ野草に生じるところの蟲
 川谷よとじ甲介の虫の類と云ふ

○龜の四肢ひそ
 けり多しと云ふ
 〇鯉魚の腹中の
 骨多し俗小これとえ
 〇鯉魚の類乃中の
 骨多し俗小これとえ
 〇鱗魚龍のり
 カを鱗のり
 長かゝ鯉のり
 鱗のり
 三千鱗のり
 ○鯉魚の腹中の
 骨多し俗小これとえ



へ咳かゝる瘡瓜
 〇蠟ろう一名と美甲
 〇蠟ろう一名と蟪けい蚌
 〇小兒せうにのつゝ熱
 〇螺らの瘰癧れいぎ結核
 〇田螺でんら小便せうべんと利
 〇蟹かにの血ちとさんど



〇毛龜もうきの陽道やうだうとた
 〇小兒せうにのつゝ熱
 〇螺らの瘰癧れいぎ結核
 〇田螺でんら小便せうべんと利
 〇蟹かにの血ちとさんど



貞子まことの神かみ言ことば集しゆ

と解と海蛸夫
 螺螺蛸はら
 ○蛤の五臓とろく
 一酒とろく胃
 とひとろく肺の五
 塊や
 ○蚌の五臓とろく
 一胃とろく心
 に一中と温め食
 と解と陽とろく
 ○蛸の胃とろく
 乳とろく目と
 のとろく小使
 と利一脚氣とろく



毛龜
 みのら

○蚌の渴とろく熱
 とろく酒毒と解
 一胃とろく心
 帯とろく一蚌蚌同
 馬刀
 ○貝のけとろくわ
 一目のとろく心
 に合とろく食
 痛とろく海肥同
 ○蛸の虚とろく心
 ひ前とろく胸中
 の丸とろく心
 ○蛸の虚損とろく



頁
 蛸
 蚌
 蛤

中々ののけりゆく
 今一酒後の遊と
 〇鯨の精瓜身
 〇車渠の神とやん
 緒の茶毒と解と
 張毒のりひと同
 〇淡菜の虚勞精と
 〇鰻の痛気無帶
 下は久く食と
 人の養ねる



〇辛螺の飛尸遊
 虫不生はく食
 〇梭尾螺味考
 法螺貝ともかく
 〇玉兆の巧用蚌
 に同一多く食
 〇帽貝の巧用帽
 子に竹う紙毒の
 〇海燕の五温



頁書增補川原圖集十五

てしと身しじ
 けし煮てくく
 一名陽遂足
 海盤もい
 ○寄蟲の類を
 はし心志を
 あし
 ○海膽の類を
 たつし
 ○郎君の婦人の
 かんざんふ
 とま
 中へ

○螢の腐草の
 燭竹の根に
 やつと
 大火と氣と
 と
 ○蚕の蠶
 暗蜘蛛
 蝗に似て
 の末
 ○螻蛄の土中の泥
 と
 一名土約
 蠅



頭書増補川家圖彙十五

頭書増補川家圖彙十五

足仲五にほむら
 るく死の臂とく
 ○絡線（きりぎりす）のきりぎりす
 とももの一名胎（た）
 を見つととももの
 此くひたり
 ○蟻蚋（あひる）の二名蟻（あ）
 蝨（し）とひん（ひん）
 ひく俗ふちる
 ともひ
 ○龍馬（りゆうま）の二名龍（りゆう）
 雞（けい）とひん（ひん）と丸（まる）
 脚長（あしなが）龍（りゆう）のや
 ともひ



○蜻蛉（せいりやう）の六足四の
 つとま夏（なつ）と冬（ふゆ）と
 んでひん（ひん）とらん（らん）
 喰（く）ふ（ふ）とらん（らん）
 ま（ま）とひん（ひん）
 ○赤卒（あかすた）の二名赤（あか）
 の久（ひさ）赤（あか）とものま（ま）
 俗（ひん）のわ（わ）とん（ん）とと（と）と（と）
 黒（くろ）や（や）れ（れ）ひ（ひ）て（て）唯（ただ）痺（しび）
 と（と）活（か）を（を）
 ○鼻蝨（びし）と蝨（し）の二名蝨（し）
 と（と）蟻（あ）同（どう）
 ○蜻蛉（せいりやう）の二名蝨（し）
 斯（し）い（い）と（と）に（に）似（に）たり



貞書増補川野文圖集

○蝶の登化して
 くる又変化して蝶
 とする風蝶のあけ
 こ胡蝶蚊野
 城同
 ○蠅の希足ふて縄
 とするをくらとふと
 して虫へん小虫の
 定く燭灰の内
 下くせむ
 ○金龜の天さ万豆
 のさくくま蔓草
 乃中にせむ
 ○燈蛾の燈とく



くと飛蛾も燭蛾
 ともしひらひら
 ○馬蜂の虫の大き
 ののさくくま蔓草
 ○叩頭の虫とく
 ひともひらひら
 ともしひ
 ○始の七月の末よ
 のさくくま蔓草の
 老のさくくま蔓草
 せむ
 ○金鐘の一名金鏡
 果も月鈴のとも
 ひらひら

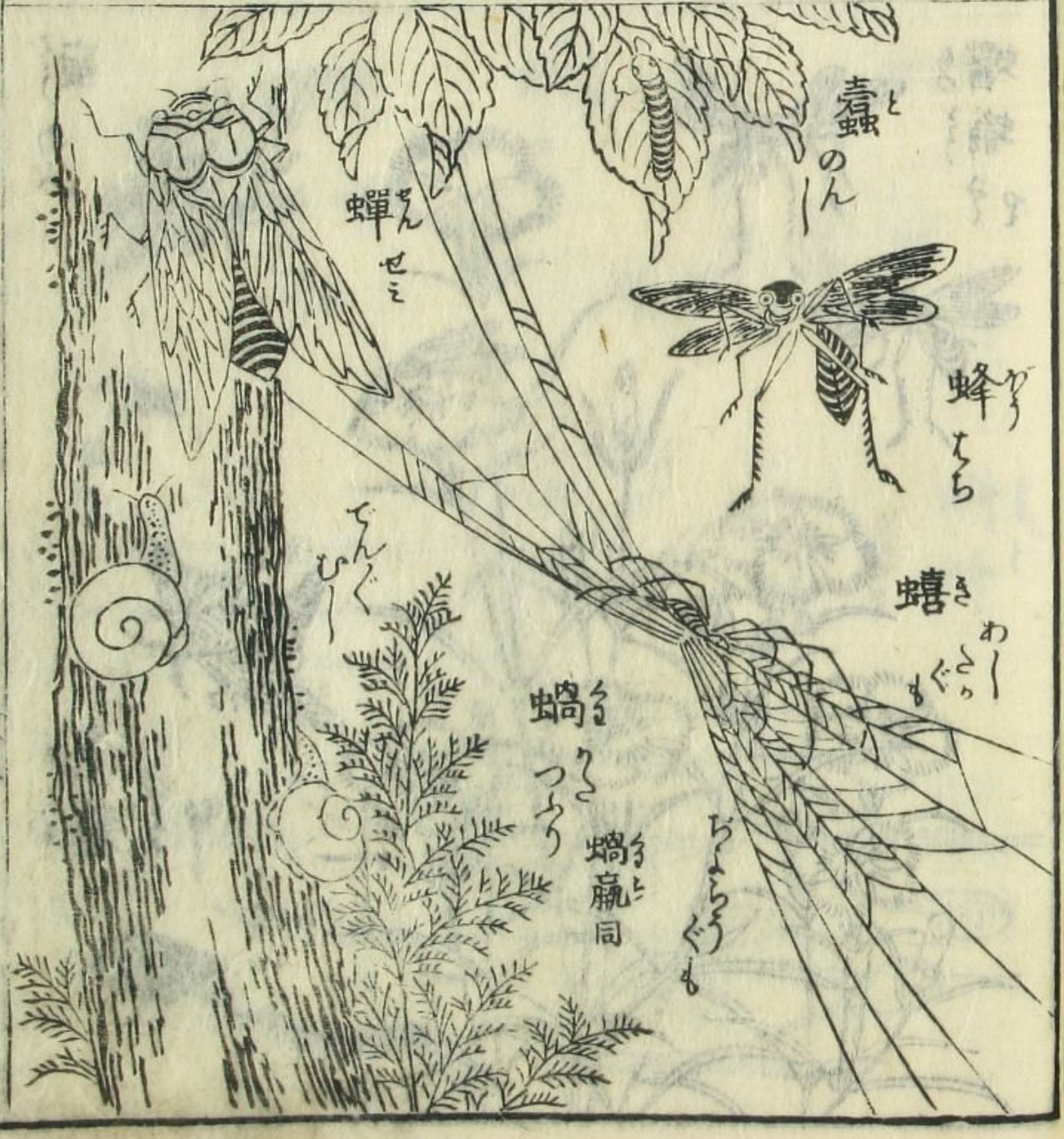


貝書地補川次國東

○變金虫へんきんちゅうは多く音くついの音ふぬららんとて多し
 ○斑蝥はんぼうは人ふた毒たぐを斑猫はんねこともま
 ○紐ぬい樹虫じゅじゅうは氷上ふおぞ
 虫ととも緝蝶しやくてつ同
 ○鬻髮りゅうはつ二名天平てんぺい
 ともいふく髪とく
 ひる目のふふ二角あり
 ○蓑虫さむし一名本螺ほんら
 結草むすくさともいふ
 ○蜂はちの腐菌化ふきんか
 てくる毒尾どくびあり



蜂はちのこゝろは蜂はち
 こゝろあり
 ○蠹くは木の心こゝろを
 中なかにあて本もとを食くひ
 へる本もとはかへて蠹く
 とし入いるまどとく入いる
 蠹くともいふ
 ○蟪かいはのゝかまきく
 りかり蝻せみ同
 ○蟬せみは地虫ちちゅう化かして
 みるはあつて鳴なの
 んで食くつて
 ○蝸かきは池澤草樹いけさわくさじゆの
 房ふさふけしむのこら螺ら



〇蚊の音 蠅化して七蛾
 とある 蛇蛾の終也
 〇蠅 西蠅のこもり又
 蝶 麻も細腰蜂と
 も蒲苔もいふ俗
 〇氣 磐の二名 行夜
 つまらぬ短くてもく
 飛ぶ



〇 蝸の田野小生
 面の蒸気は飛んで人
 の肌をさすも其の
 愈々
 〇 蚊の子々虫化して
 なる 豹脚のやぶら
 〇 子子のたけり水
 へさしてせむ化し
 て蚊と多の一名 釘
 倒虫
 〇 蛙の惣名なりね
 どをさして背ふ
 紋々 〇 蛙の惣名なりね
 どをさして背ふ



貞吉書物川原図景十五

貞吉書物川原図景十五

へんごうはんごうを
 ○蜈蚣のせみは黒く
 みどり及足はあつく
 膜のありさねらる
 人の鳥糞の尿の
 大は蔭とあつて
 ○蟾蜍の腹は白く黒
 さはわりせりふか
 んきわり油は蟾
 酥といふ葉を用
 ○蝦蟇のせみは黒
 黒かり身小にして
 よくをく化し
 弱しむ

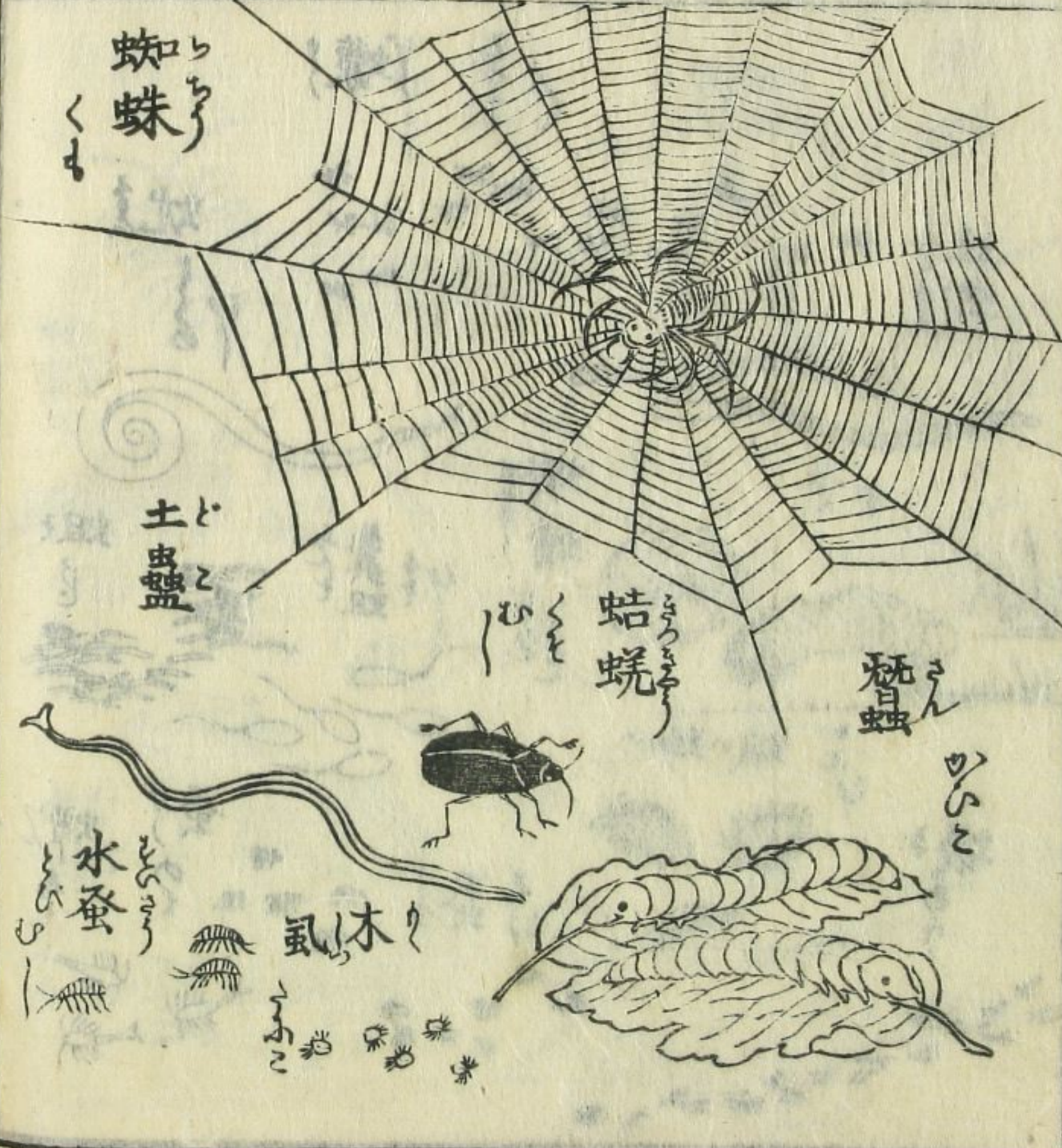
中にほふ及青さと
 わまうちとつた赤
 さと赤くさつと
 毛と小兒小食せ
 めてう
 ○蜘蛛の草食のま
 水中にせむを蛙
 恬東並同
 ○蛭のたあつた馬
 蛭といふ人血
 とし
 ○蠼螋のこちむ
 ぶふはくは黒し
 人の乾いしうす

類書増補川図彙十五



類書増補川図彙十五

○蜘蛛のむしを
て足が毒あり
人の耳に入ると
粉腦をよこへ
○百足のせこ七分
尺黒一尺百ふさ
一名馬蚊
○蠶のふしうく
せし陽気して死
蟻が死時風吹
春のあきとん
るふ
○蛇の人の腹中なる
かた虫あり蝸同



脾胃の湿熱
○蛆の腐肉のあき
はせど魚の畜積の
肉のうちにはせど都
の中ふもく蠶同
○蟻の樹根のあき
土の中はせど身は
く及白く蟻
同又ふく黒とあり
○蚯蚓のあきふは
せんくど死に夜く
○蜘蛛二名蛛蝟



虫のつゝ又ハ角婦

ともいふ

○蟬の書中の白魚

カク一名蛎と云俗

に毒魚といふ

○蚕の沫下中

けと

○孔虫の身小

蛭ももく又毛も

みくもからま

○蟻の大き

とら小と蟻とらわ

とら君臣の義あり

故小義の字とく

○蜘蛛のつらつら

と花蜘蛛といふ

ともと蟻子といふ

一の大臭くもと

わんかひとびか

○登の系と虫

とび俯一とび

を二十七日ふて老

黄帝の元妃西陵

氏始て登とや

あつてあはれ

○蛭のつらつら

とつてとらと

毒虫同

殼

から



蛻

もぬけ

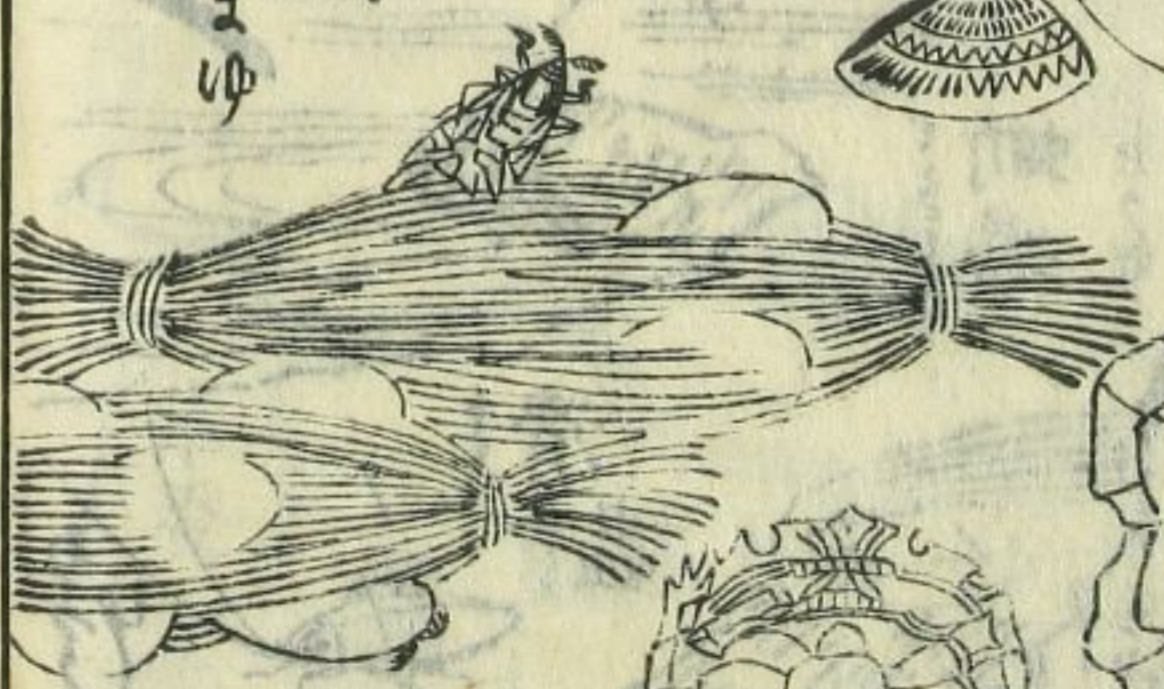


蟬蛻

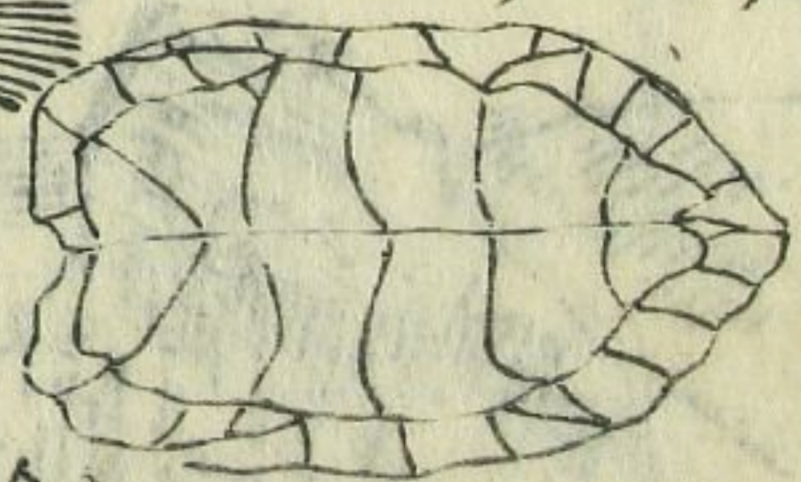
うのせ

繭

まゆ



甲



介

蛻

鼓蟲

かひく

蛻

蛻

蛻



補
 ○土蠶つちご蛭むしふいて及
 其その多おほく頭あたま耳みみとさる
 俗よみみみみにに蛭むし
 此この虫むし大おほく毒どくあり
 ○本ほん風かぜのの木き竹たけより生なず
 虫むし小こ細こくすくすく
 音ねくく度た度た多おほく壁かべ
 孔あな虫むし同おな俗よふりふりたた小こと
 ○水みづ蚕か一名ひと水みづ虫むしと
 湿ぬ地ちのの中なかにに生なず
 冬ふゆとと夏なつ月つき朧おぼろに
 水みづ上うへにに生なず水みづ



四よ足あしあり
 ○蠅あぶら蛸こ一名ひと守まも官くわん
 女めのの臂うでふふりり小こ男おとこ
 とと犯とがすするるとと言いふふ
 守まも官くわんのの人ひと壁かべ虎こ
 蝮へび並なら同おな
 ○蝮へび蛸このの土つち中なかにに生なず
 毒どくありあり石いし砂すな子こ山やま砂すな



頭書補三
 六十三

子めくび小同
 ○滑蟲一名蜚蠊
 此のへはどのをこま多
 補羽みそこまは
 ○殻の蚌螺の敷のう
 の殻名也蛤のうとま
 ぬ粉まは産るをえ
 いのうま甲香をのま
 厭とも書なき物入
 親の貝のうとを味のま
 同の痛は産るちとむ
 つかき貝のうと牡蠣と
 つかきと産るをむ
 ○蛇の蛇蛇ひひのきぬ

方々蛇皮を蛇退とま
 黒焼中酒少用
 まの雅産小
 蟬蛻の蟬退とも枯蟬
 花の粉少用油中
 とも耳たきに付る産を
 ○甲の亀の甲からひ
 かり龜をいして甲乃
 枚とて吉山と
 ちまきまき毛と龜
 トのうま茶用白
 まの腎瓜捕ひ麻血
 と消と又敷魚甲産
 毛敷腫と消と



頁背馬鹿補劑川北家國書集十五

十一



頁背馬鹿補劑川北家國書集十五

十二

本草綱目卷之四十一

○荅の水氣を下し濃血としらふ小便と利し脹満消渴と治す

○麻の中と和し氣瓜くくし嘔とやめスうとあきかひくくらん酒毒と解と扁豆籬豆眉豆かへび小同

○胡麻の氣力とまし肌肉と長し筋骨とくくし大小腸と利し耳目とわくくくくく

○嬰粟の風毒とくくく熱とくい瘰と治し反胃と治しのかくくくく

○登豆の胃とくくくく

○王黍の氣とまし中と和し腹とくくくくく

○蜀黍の中瓜のくくく腸胃とくくくくく

治と蘆稌萩稌同

○刀豆の中とくくく氣瓜くくく腸胃と利しあやぐり瓜とめ腎とましえとめがく

○熟豆の中とくくく胃とまし小便とくくく狸豆



本草綱目卷之四十一

虎豆カウビに同

○燕麥のわき平とく

カク、飢とをくひ腸と

めくふと一名雀麥と

○穂のいねのやかり

のが批いふひせ今梅ど

ふみよさ

○蔓草よりあり木稗

穰稻草カウビに同

心より之を楷藍結並同

○穀も木麻粟麥豆

あま瓜五穀といふ種と

たの稗いともぬ

○其のいさなりあり

魏の曹植詩ふつと

あり馬も瓜と

○饅頭のいし肉餡とも

ちひし事あり小豆餡

のの瓜素饅といふ餡

かたりのと甘餅といふ

今の新製品とわり唐

饅頭のいし肉餡饅

頭カウビに同

○飯のいしあり又あり

強飯のいし赤飯のいし

きりし乾飯のいし水

飯の湯つひりし麥飯の

ひさしし粟飯のいし

胡麻 油麻 脂麻 芝麻

罌粟



燕豆



玉黍

蜀黍

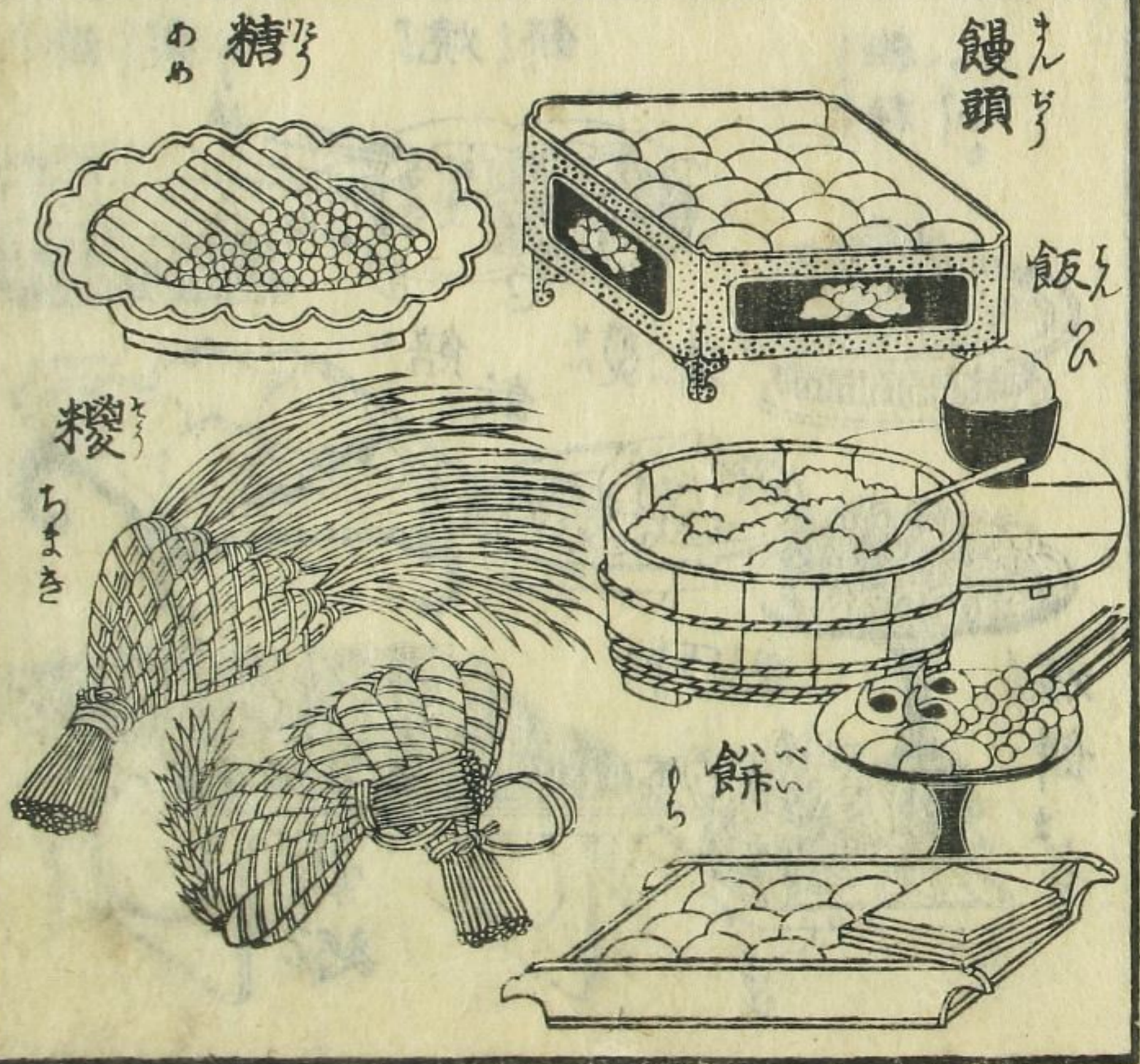


刀豆 刀鞘豆 挾豆同

○餅のりち麩餅力り
 無の粉餅あり團子力り
 飯團のりち栗餅と
 わりち艾餅なり
 ○糖のりめなり飴同濕糖
 なるりめ錫のりめなり
 どり小老人とマシカ
 一種地黃糖と名づる
 備のり當時夏月に専
 小児小用の
 ○糰いりち力り粽同
 角黍といふ楚の屈原
 さいりさいり一率といふ
 古の葦の葉にてつこを
 の糸めて巻いとを今用



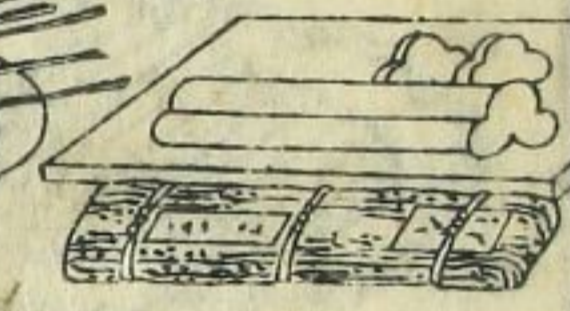
ゆる笹の葉の腹中によ
 ろしめどとらねくわ
 け飯かししゆとつ
 ぶ
 ○索麩いしどあ
 一名索餅といふ又温飽
 蕎切冷麥カといふを
 べて麩類とらる
 ○餅餅の俗に伏兔といふ
 どのがわけの餅を油
 堆とらる
 ○環餅いしどかりわ
 らわけの菓なり櫻
 餅膏も櫻寒具も
 つつ巧菓わらら



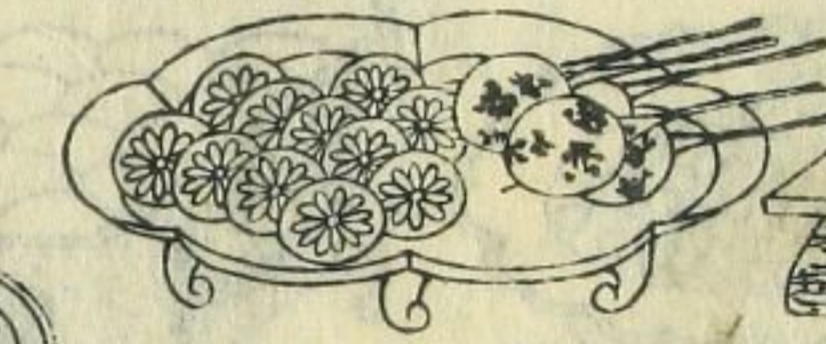
和名書

○酢漿すさむらいとを皮かり中
載のりとも書かきべし俗まじに
とやくなを
○焼餅やきもちの饗やきもちとも書かきべし
串くしにさしこむをさぐくも
又また者のものをもちににつらてつら
かたかたと名なづく
○柜き餅もちののりりかかつつ搦な
とつてとつて飴あめゆゆくくめめもも
方かたりり俗まじにに奥おく米こめととりりをを
おおとととと飴あめかかつつととひひかかと
わわららんんののりりかかつつののりり
○炙餅あぶりもちの餅もちののりりかかつつ
葉はわわぐぐららかかりり又また餅もち
餅もちとも書かきべし

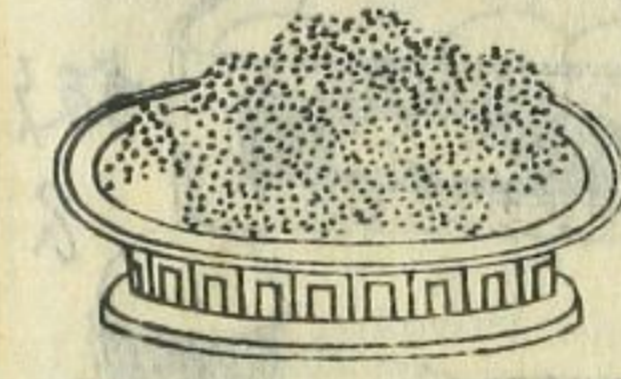
酢漿すさむら



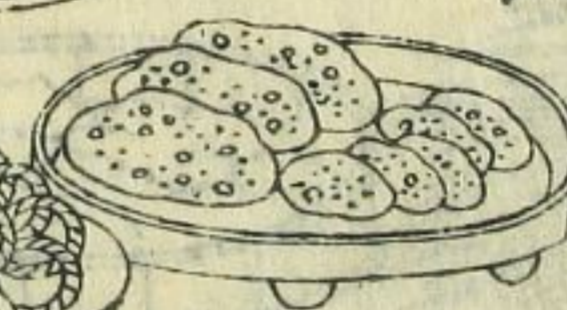
焼餅やきもち



柜餅きもち



煎餅せんべい



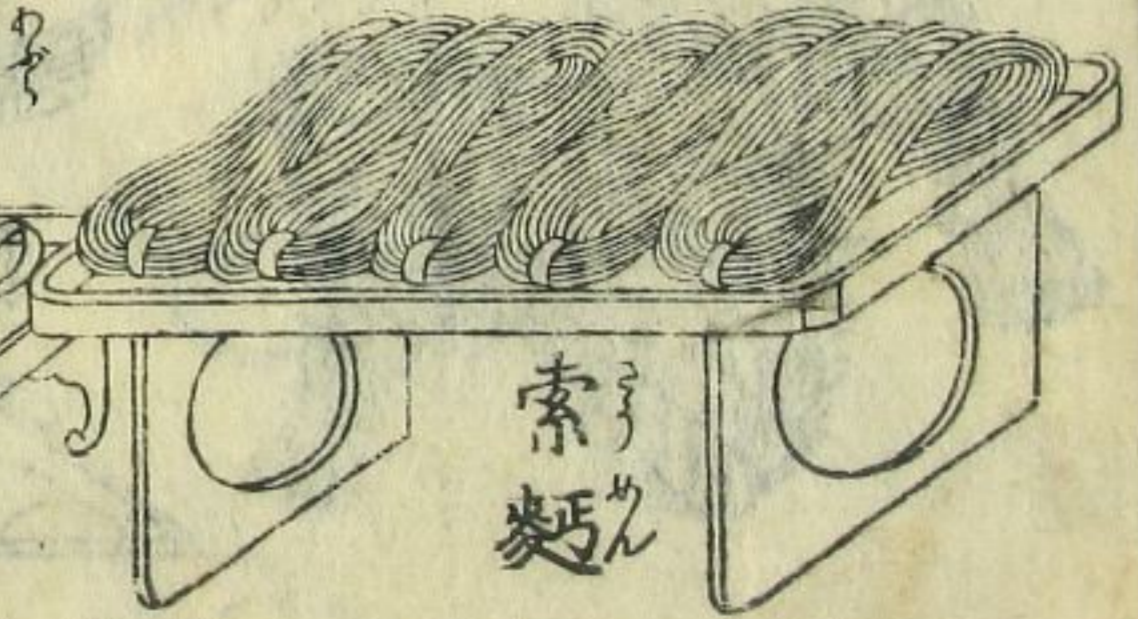
環餅かんべい

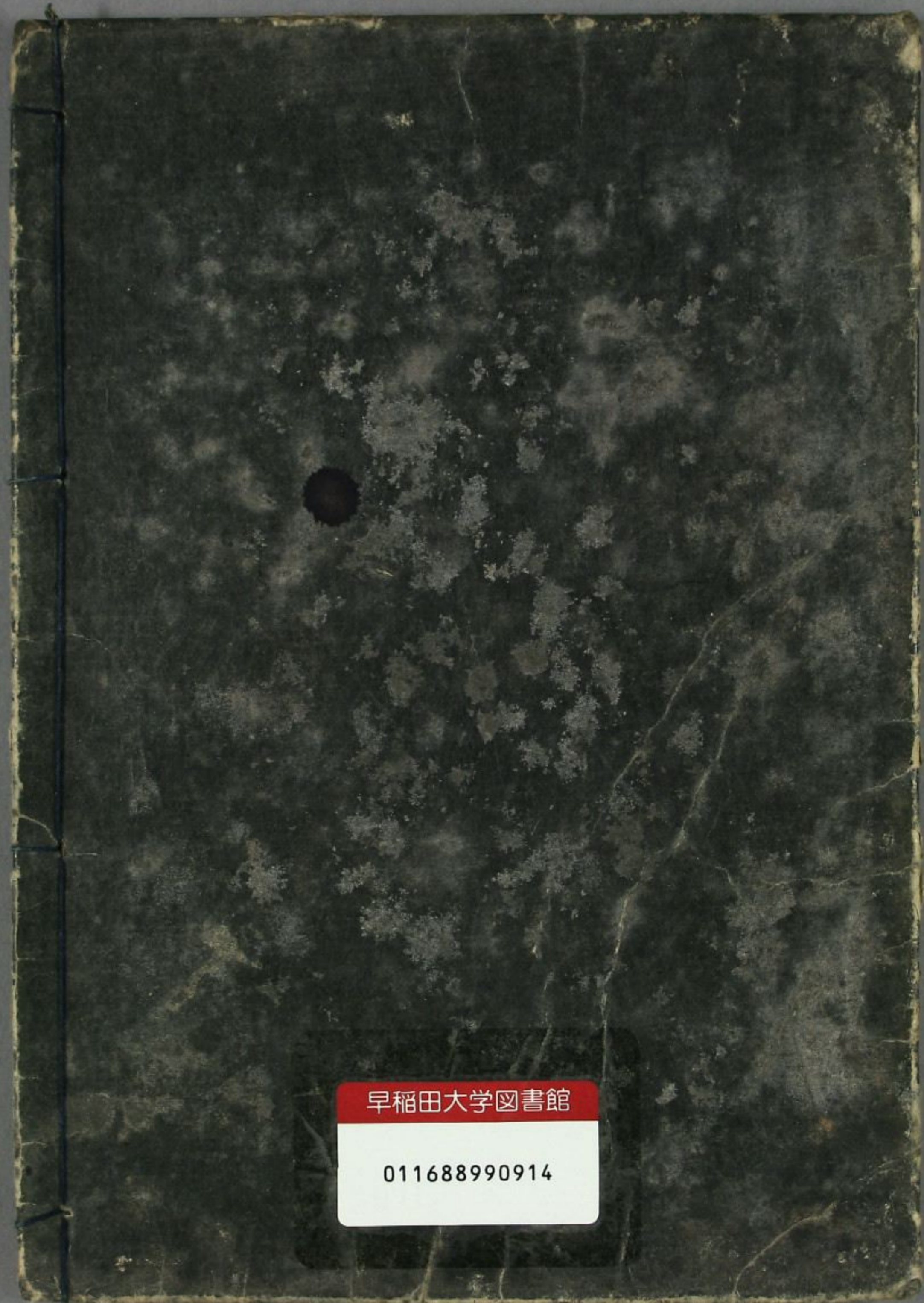


果巧くだもの



索麩くわん





早稲田大学図書館

011688990914